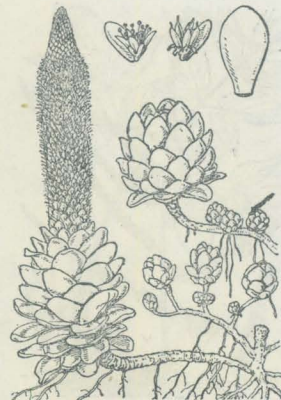




第 3582 図



第 3583 図



きれんげしょうま

Kirengeshoma palmata Yatabe

大和、四国、九州の深山に稀に産する多年生草本で、茎は高さ80cm内外、無毛である。葉は対生し長い柄があり、心円形で先は鋭く尖り基は心形、尖った深い欠刻と鋸歯があり、長さ、巾共に10-20cm、両面に磁石の針の様な伏毛がある。茎上部の葉は柄が短くなり、8月茎頂に円錐状に聚繖花序をして黄色鐘状の花を開く。萼は半球状で先に浅い3角形の5歯がある。花弁は長楕円形で先はやや尖り、長さ2-3cm。雄蕊は15本、3列にならび、花柱は3又は4本あり長さ約2cm。蒴は広卵形で長さ約1.5cm、3裂し、多くの種子を出す。和名は黄花を開くレンゲショウマに似た植物の意味である。

ちゃぼつめれんげ

Sedum orientoasiaticum Makino
(= *Cotyledon sikokiana Makino*)

紀伊半島、四国、九州、朝鮮の山地岩上に稀に見られる多年生小草本である。根茎は短く太く、その頭に多数の葉を密につけてロゼット状をなす。葉は線形で長さ8-20mm、多肉でわずかに扁平、先は尖り短針に終る。7-8月、高さ2-6cmの数本の花茎を出し、聚繖花序をなしやや少数の白花をつける。茎葉は根葉より少し小さく、下部では時々3枚輪生するが上部では互生する。苞葉は小さく、花梗は下部の花ではやや長い。萼片は5個、長楕円形鋭頭で多肉である。花弁は5枚、白色で半開し、披針形で長さ4-5mm、質やや厚く背稜は著しく突きでている。雄蕊は10本、花弁よりずっと短く、葯は暗紫色。雌蕊は5個集まり、白色、花柱は短い。

こいわれんげ

Sedum aggregatum Makino
(= *Cotyledon aggregata Makino*;
Orostachys aggregatus Hara)

北海道や本州北部の海岸岩上に生ずる多年生草本。根葉は四方へ開きロゼット状をなし、多肉で通常緑色、長さ1-5cm、倒卵形で先は短く尖り、基は少し細まる。時に短い匍枝を出し、先に小さいロゼットを作る。秋、中央から太い花茎をだし、長さ10cm内外の極めて密な穂状花序をなして白花を開く。茎葉は長味があり、上方に行くに従い小形になる。花は殆ど柄なく基に2小苞があり、萼は5深裂する。花弁は5枚、長楕円形で先は尖り、長さ5-6mm、半ば斜めに開く。雄蕊は10本、花弁より長く、葯は初め赤味がある。雌蕊は5個。開花した株は枯れる。イワレンゲに比べ、全体小形で往々匍枝を出し、葉は緑色で冬は枯れる。

ちちっばべんけい

Sedum sordidum Maxim.

山地の岩上又は樹上に稀に生える多年生草本である。茎は簇生し、高さ15-30cm。葉は互生又は対生し、卵形で縁に波状の鋸歯があり、基は急に細まって明かな葉柄となり、長さ2-4cm巾1.5-3cm、多肉で通常暗紫色をおびる。秋、茎頂に聚繖花序をなし、多数の花を密につける。花は径6-8mm、淡黄緑色である。萼片は短く、3角形で長さ1mm許。花弁は5枚、長楕円形で尖り、長さ3.5-5mm、中部下で急に外へ曲り平開する。雄蕊は10本、花弁より長い。果実は5心皮からなりほぼ直立する。

やはずまんねんぐさ

Sedum tosaense Makino

四国の石灰岩地に生ずる多年生小草本。茎はやや太く、下部ははい、高さ12cmになる。葉は互生し、倒卵形で先端は凹み、下部は細まって長い葉柄状となり、長さ1-4cm、扁平多肉である。春、茎頂に短い開出した枝を分ち黄花を開く。花序は径1.5-4cm、苞は葉状で細長くわずかに凹頭、花はほとんど柄なく、径約1cmある。萼片は5個、細く大きさが不同である。花弁は5枚、披針形で尖る。雄蕊は10本、花弁より短い。雌蕊は5本、花柱は短い。果実は5心皮が横に平開し、基で癒合している。和名は矢筈万年草の意味で、この種の葉の先端が矢筈状に凹んでいる特性によって名付けられた。

らんぜんまんねんぐさ

Sedum polytrichoides Hemsl.
(= *S. kiusianum Makino*)

本州西部、九州北部、朝鮮などの山地岩壁に稀に見る多年生小草本。茎は下部匍い上部は直立し高さ10cm内外に達し、無花枝では特に葉が密につく。葉は互生し、披針状線形で先はやや尖り、長さ6-15mm巾1.2-2.5mm、多肉であるが平たい。6月頃、茎頂に枝を分ちて聚繖花序をなし、径1cm内外の黄花を開く。苞葉は花より少し長く、花は殆ど無柄である。萼片は5個、長さ2mm内外でやや不同である。花弁は5枚、狭披針形で先は長く尖り、長さ5-6mm。雄蕊は10本、花弁より短かい。雌蕊は5個、花柱は細長く約1.5mm、子房は下部で癒合している。和名はこの種が初め長崎県雲仙(ウンゼン)岳で見出されたことによって名付けられた。



第 3585 図



第 3586 図

